

医療系バンド
Heartfull Hospital
ハートフル ホスピタル



医療系バンド ハートフルホスピタル

医療現場の思いを歌に託し、音楽活動をしている現役内科医赤澤先生が率いるバンドです。闘病中の老夫婦を描いた 2ndCD「永い二人だから」は反響を呼び、CM 曲「あなたがいたから」はテレビ番組のエンディングテーマに採用されるなどテレビ・ラジオにも多く出演しています。CD4 作目は「マンモグラフィ」

名城病院 腎透析科 ハートフルホスピタル
公式ブログ <http://ameblo.jp/heartfullhospital/>

4/9 土



「ご自分の元気エネルギー」 について

心療内科ゆたかクリニック 副院長
貴志 素子先生

5/7 土



「身体と心のリフレッシュワーク」

●岩橋 由莉さん

演劇的な手法を用いてコミュニケーションを体験していく「ドラマ教育」をベースに日本各地でコミュニケーション・アーツワークショップを行う。
・五感をとぎすまして自らの身体や感覚で「感じる」ことを大切にすること・人とのやり取りを楽しむこと、そして、それらを通して自己表現の喜びを味わうことを第一の目的にリラックスした場作りや体験過程を丁寧にを行うのが特徴。



《参加者の声から》

「最初は自分を感じようと思っていてもわからなかったけど、終わってみると考えなくても『わたし』が実感できるのが驚きです。」
「自分の中がぐるぐる動いているのがうれしいです。」
「私の中にあるいとおさにアクセスができて元気になりました。」
「昔の私を思い出して泣けてきました。」

《講師から》短い時間ですが、気分転換のつもりで気楽に楽しんでくださいね。

6/4 土



「ガンが病気じゃなくなったとき」～おなかの上で遊ぶ～

岩崎 順子さん (財) 和歌山県人権啓発センター登録講師

親子のコミュニケーションスペースを作りたいと思い「こどもふくのティンクル」を2001年まで経営体験を綴った「ガンが病気じゃなくなったとき (青海社)」著者
愛知医科大学 看護学部 非常勤講師
和歌山県海南市在住

ガンになった夫は、自宅で生きることを選択しました。亡くなった日の朝、幼い子ども達3人は涙でいっぱいでした。でも、あることがきっかけで父親と遊びました。顔やおなかに触ったり、歌を歌ったり。
「おとうさん、死んだら、だんだんカチカチになっていくんやなあ」悲しみで一杯だった表情は少しずつ変化していきました。最後には、父親のおなかの上に、馬乗りになって遊びました。ガンが病気という枠を超えて、いのち、生きること、心の絆について本気で向き合う機会をくれました。

7/2 土

〈そのまま FAX して下さい。〉

FAX用紙

お名前

ご連絡先 TEL

〒

住所

参加日 4/9・5/7・6/4・7/2 参加人数 人 子どもの参加(あり・なし)

子どものお名前 アレルギー

子どものお名前 アレルギー

子どものお名前 アレルギー

※小さい子どもさんは NPO 法人えーるに見て頂けます。当日おやつ代として 100 円ご準備下さい。

FAX●072-453-2099

特定非営利活動法人 ピンクリボン大阪

電話●090-5463-8954

(富尾 着信履歴により連絡させていただきます)